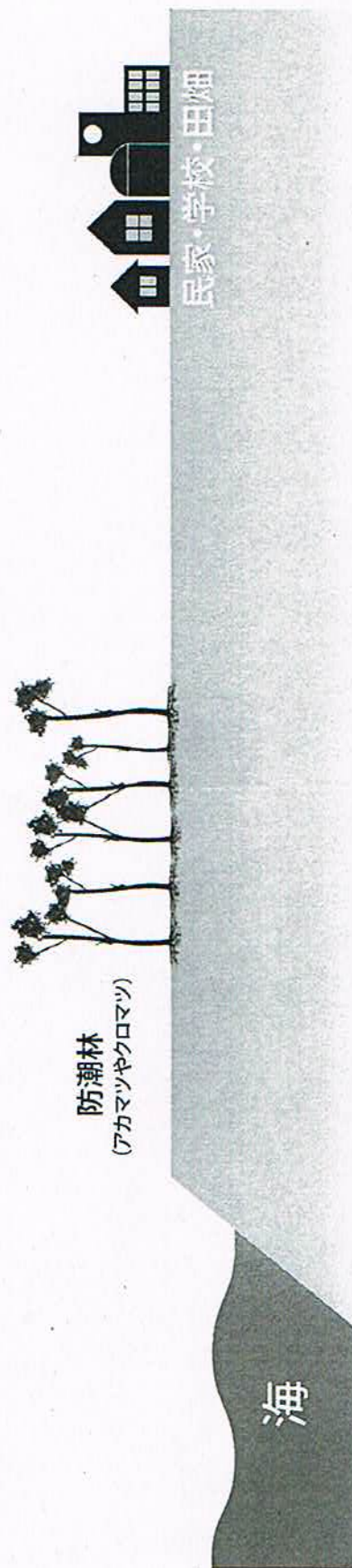


なぜ今までマツ林による防潮林だったのか？
マツは成長がはやく、塩に強い。日本人のマツ信仰？

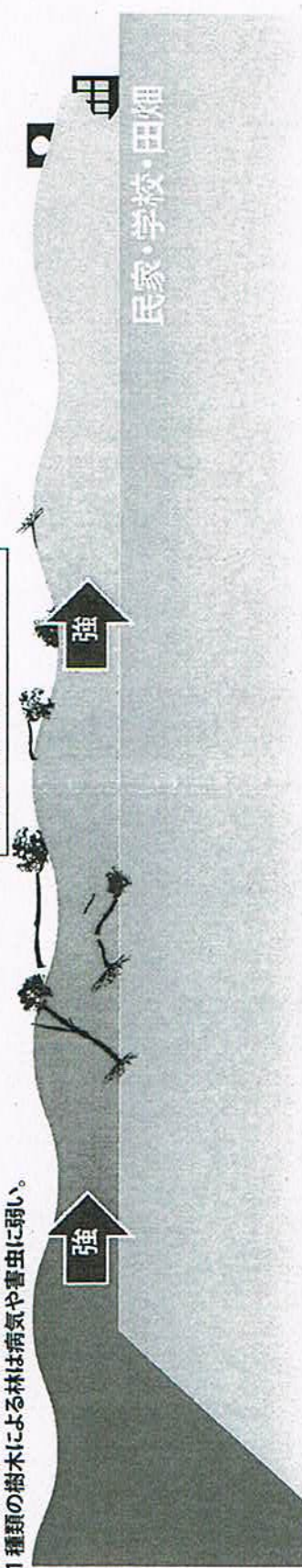
1. 今までの防潮林（アカマツ・クロマツのみの防潮林）



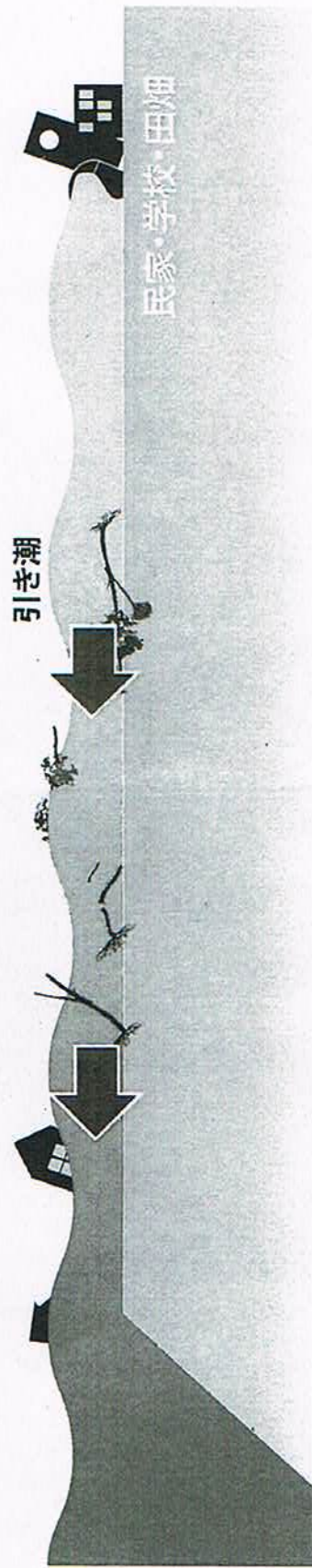
【津波災害時】

震災時、津波により多く根こそぎ倒れてしまった。
松は年を重ねるとあたまが重く倒れやすいため、流木となり危険であった。
その土地の植生に適合していない。
1種類の樹木による林は病気や害虫に弱い。

流木となった木は、人や建物に
危険をもたらす。



【引き潮時】 引き潮によって、多くの人々の生命や財産が、海に流された。



2.これからの防潮林(生命と財産を守る緑の防潮堤)

【特徴】

それぞれの土地の樹種の選択が基本。
その土地本来の深根性・直根性の様々な樹木が互いに支えながら成り立つ森林は、最も自然の力強い状態であり、病気や害虫にも強い。
多種のポット苗を混植密植させて、植えてから2〜3年は除草しなければならぬが、あとは管理不要。世代交代を重ねながら、次の氷河期が来る9000年は保たれる。
将来、超高木は択伐して地域経済に役立たせる。後継樹が待っている。
森の防災環境保全力を維持しながら地域と共生する。
人為的影響がなければその土地にあるべき森なので、自然環境教育に最適。

その土地本来の色々な種類の
常緑広葉樹(潜在自然植生)による森
(高木・亜高木・低木・草本植物による多層群落の森)

高 木: タブノキ、シラカシ、アカガシ、ウラジロガシ etc
亜高木: ヤブツバキ、モチノキ、ユズリハ、シロダモ etc
低 木: ヒサカキ、マサキ、ヤツデ etc

通常時は防風林や防砂林として機能し、
地域の憩いの場として活用できる。
気候の緩和、地球温暖化にも貢献。



民家・学校・田畑

深根性・直根性で地中にしっかりと根を張り、根こそぎ倒れることはない

海

【津波災害時】

多層群落の森が緑の壁となる。津波を破碎し、その効果により津波のエネルギーが減殺されて、水位と速度が下がり、避難する時間を稼ぐことができる。

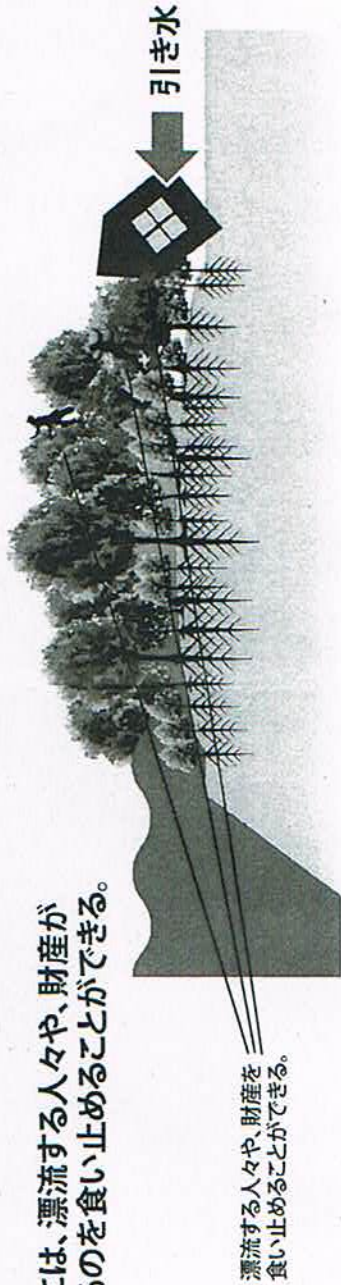


大津波を止めたタブノキの根。
(前 三原市)



新日鉄釜石シラカシ37年目
(2011.4.27)

【引き水時】 引き水の際には、漂流する人々や、財産が海に流出するのを食い止めることができる。



漂流する人々や、財産を
食い止めることができる。

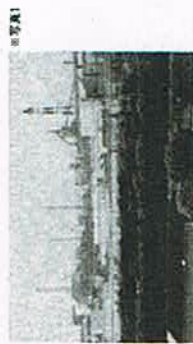


写真1



写真2



写真3

※写真1,2,3 1975年に撮影(新日鉄 釜石)
撮影 釜石市 2011年4月27日

3.震災復興 防潮林堤の提案

著作/ 仙台輪王寺
監修/ 宮脇 昭
制作/ イトオン

震災によってでた、大量の瓦礫の山。その毒と分解不能なもの以外を有用な地球資源として活用。



被災地の瓦礫の山を選別し、穴を掘って埋め、土と混ぜる。



瓦礫

10m

20~30m

10m

瓦礫

30m以上

【震災復興における防潮林堤の優れた点】

被災現場の廃材を有効利用することにより、運搬などの無駄なコストを省ける(経済性)。
燃やさないので、環境面にも良い。

その土地本来の色々な種類の
常緑広葉樹(潜在自然植生)による森
(高木・亜高木・低木・草本植物による多層群落の森)

高 木: タブノキ、シラカシ、アカガシ、ウラジロガシ etc
亜高木: ヤブツバキ、モミノキ、ユズリハ、シロダモ etc
低 木: ヒサカキ、マサキ、ヤブデ etc



瓦礫

40~50m

通常時は防風林や防砂林として機能し、
地域の憩いの場として活用できる。
気候の緩和、地球温暖化にも貢献。

津波時災害時

海

瓦礫と土壌の間に空気層が生まれ、より根が地中に入り、根が瓦礫を抱くことにより、木々がより安定する。有機性廃棄物は、年月をかけて土にかえる。



民家・学校・田畑